

博士論文審査書 (課程博士・論文博士)

論文名	宮沢賢治研究 一宮沢賢治の演劇観の形成と実践一			
	(英文タイトル) A Study of Kenji Miyazawa - The Formation and Practice of Kenji Miyazawa's Dramaturgy -			
学生番号	52315001	氏名	藤田 なお子	
所見				
別紙、「論文内容の要旨および審査結果の要旨」のとおり				
審査結果	可	否	学位記番号	第 15 号
主査	昌山兆子 (印)		副査	(印)
副査	望月善次 (印)		副査	(印)
副査	田中裕之 (印)		副査	(印)
論文提出日	論文審査日	公聴会	可否決定日	博士学位授与日
2017年10月29日	2018年2月10日	2018年2月17日	2018年3月8日	2018年3月16日

論文内容の要旨および審査結果の要旨

藤田なお子の博士号請求論文「宮沢賢治研究 ―宮沢賢治の演劇観の形成と実践―」（口頭審査 2018年2月10日）は、4章と副論文で構成されている。「第一章 宮沢賢治の演劇体験と演劇観」では、盛岡高等農林学校における保坂嘉内脚本「人間のもだえ」の出演体験から、稗貫（花巻）農学校教員時代の演劇実践を明らかにしている。「第二章 童話集『注文の多い料理店』に現れた演劇性」では、童話集『注文の多い料理店』の収録9作品のうち、「かしわばやしの夜」「鹿踊りのはじまり」「どんぐりと山猫」「水仙月の四日」の演劇性に着目して分析をするとともに、目次の構成に見られる演劇性を検討した。「第三章 四つの戯曲と田園劇上演会」では、残された戯曲「飢餓陣営」「植物医師」「ポランの広場 第二幕」「種山ヶ原の夜」の分析とその上演会の構成について検討している。「第四章 宮沢賢治の戯曲および童話に見られる「農民観」」では、演劇性を研究する過程で見えてきた「農民観」の変化を指摘した。副論文「『銀河鉄道の夜』の水死と改稿 ―同人誌『アザリア』の交友の影響―」は、盛岡高等農林学校の友人で「アザリア」同人、河本義行の水死を賢治は知らなかったとの通説への反論として、知っていた可能性を示す新資料を提示し、「銀河鉄道の夜」への影響を検討したものである。

外部副査、望月善次先生からは、「演劇観からの宮沢賢治検討は、興味ある観点なので、是非形にしてもらいたい。」との評価をいただいた。問題点としては、演劇（性）の定義が明確に記述されていないとの指摘を受けたが、総合芸術として演劇（性）を口頭審査で定義したことで了解を得た。また「定義を踏まえて、各作品は、定義のうちのどの要素を満たしているのかを明示する。最後には、今回検討の全作品は、定義のうちのどうした要素を満たしているかの一覧表も添える。」「各章等のまとめ及び全体のまとめは、「自説の新しさ、残された課題（含む検討中課題）」が明示される形とする。」等の執筆上のアドバイスを受けた。農民像については、大島丈志『宮沢賢治の農業と文学～苛酷な大地イーハトーブの中で～』（蒼丘書林、2013）の検討の必要が指摘された。この点に関しては、本論文は演劇観の形成と実践に焦点を当てており、農民観が今日知られる形になったのは、農学校教員になって以後であることを指摘するに止めており、今後の研究テーマとしたいとの返答を了承された。

内部副査、田中裕之先生からは、「関連文献に広く目を配り、適切に論じている。ただし、四章は「農民観」という言葉のわりには薄い印象がある。副論文ではあるが、『アザリア』研究は、これまでの空白を埋めるもので大きく評価できる。河本の死を、知っていた可能性があるという資料を発見したことは特筆ものである。」との評価をいただいた。ただし、「第二章、作品集『注文の多い料理店』全体が「強い演劇性を持つ童話集」だという主張には、まだ首肯しがたい。」との指摘があった。賢治が作品を推敲することは有名であるが、収録9作品の目次の構成も例外ではなく、確定するまでに数度の変遷を経ている。作品世界への招待としての「どんぐりと山猫」、舞踏「水仙月の四月」、自然との交流「かしわばやしの夜」、終わりを告げる「しし踊りのはじまり」と、演劇を意識した創作と作品構成への疑問である。賢治は、盛岡高等農林学校時代に知り合った、親友保坂嘉内の影響を受け、演劇に目を開かれた。童話集『注文の多い料理店』には、賢治が東京で観劇した浅草レビューを意識した構成が見られるとの指摘は今までに無い視点である。残された「狼森と笹森、盗森」「注文の多い料理店」「月夜のでんしんばしら」「鳥の北斗七星」「山男の四月」の演劇性の面からの検討は今後の課題とすることが確認された。

両副査ともに、「アザリア」同人の歴史的研究による新たな発見、童話集の作品のみならず目次の構成にも演劇観が反映されているとの指摘の新しさ、稗貫（花巻）農学校で、農民である生徒が上演し、父兄を中心とする農民が観劇することを意識した戯曲の創作と実践にみられる演劇観の形成と実践、そこから見えてきた農民観の研究の可能性を、審査規定に基づいて評価下さり合格の判定をいただいた。